

神戸市会 会議録

2008.03.25 : 平成 20 年都市活力の創造に関する特別委員会 本文
(一部抜粋)

16 : ○委員 (北山順一)

○委員 (北山順一) 私も数点お伺いしたいと思います。

きょうはウオーターフロントの活性化を含めたということですから、これが中心になるんだろうと思うんですが、ちょっとこれを離れて申しわけないんですけども、先ほどからいろいろご説明を聞いておりました。いろいろご説明を聞いておられますときに気になることは、いつも六甲・有馬ということを言われるんですね、六甲・有馬。あるいは、ウオーターフロントいうたって、いつもウオーターフロントはハーバーランドから東のことがウオーターフロントであって、西の方は全く入ってないと。私はそれを感じてます。皆さん、言葉に西は入れてませんとは言いませんが、感じております。例えば、兵庫の運河もありますし、長田港も須磨港もあるんでね、そういうところもウオーターフロントでございますので、あのウオーターフロントをどう魅力的なものにするのかというようなことについても触れていただきたいということを、これはもう、ぜひとも要望しておきたいんですけども。

まず、1つお伺いいたしますが、六甲・摩耶、あるいは有馬と、こういうふうにいつも言うておりますけれども、神戸にはすばらしい植物園があるんです。植物園がありますね。あの植物園のことはちっとも出てこない。それから、すばらしい王子動物園があるんです。このこともちっとも出てこない。須磨の水族館、これも——水族園ですか、あの水族園のことについても、ちっとも出てこない。こういうのを見ておられますとき、私、何でこれを考えないのかなというふうに思うんです。

なぜかと言いますと、まず1つ、動物園を見ますと、あの北海道の旭川のあるな——あんな言うたら怒られるけど、北海道が一番遠いんでね、日本では。あの山の中の旭川市の旭山動物園が、もう大変な努力をして、日本一の動物園になっているんです。あそこの観光の大目玉なんです。旭山動物園を観光しませんが、東京の上野動物園も、横浜のズーラシアも、それから、名古屋の東山動物園も、みんな旭山に負けたんだから、神戸も負けて仕方がないのかなと思いますけれども、ここに観光振興プロジェクトというチームができておるわけですから、それぞれ担当局あるはずですから、ここを頑張ってもらわないと、初めから、この神戸の観光の中で動物園、植物園、水族園が、その審査の対象にもなってないというようなことじゃ困りますんで、そこのところを考え直してもらいたいと、こう思います。

例えば、先日植物園の、ここ 10 年間の入園者数というものを資料でいただきました。そしたら、大体 21 万とか、22 万とかいう数字なんです。植物園はどんなことをしとんのかなと思ってパンフレットをいただきました。パンフレットを見とったら、大変努力してるんです。大変努力して頑張っておるんです。これだけ頑張っておるのに何でだろうというふうに私は思っとるんですが、前に委員会で、あの植物園をもしも一からつくるとしたら、幾らかかるといいますかというて、私、聞いたことあるんです。まだわかり

ませんというような答で、いつか検討しときますぐらいの返事があったと思いますが、それは検討結果も聞いておりません。おりませんけれども、あれを今からつくろうとしたら、大変な金額がかかる財産なんです。あの財産が21万人や22万人で本当にいいんでしょうかと。

そこで、よその植物園はどうなっておるのかなと思って見ました。京都見ました。京都見ましたら、70万人の入園者を達成しましたと、こう書いてあるんです。70万人の入園者を達成しましたと書いてあるから、70万人がピークかと思ったら、ピークは142万人だと。それがだんだん下がってきておって、70万人を切ってしまったので、何とか70万人を達成したいということで頑張ったら、70万人を突破したと、こういうふうなことでございます。

だから、努力すれば、動物園がメインの観光にもなりますし、植物園がメインにもなるし、あるいは、水族園がメインにもなるんです。ここのところをもう少し皆さんの方も力を入れていただいて、魅力的な施設として見に来ていただけるような、そういうことを考えていただきたいと思うんですが、京都と比べて、何でこれほど違うのかなと、こういうふうに考えております。

それから、例えば、先日の予算特別委員会の中でも、私はルミナリエのことについてお伺いしました。ほんだから、あの委員会の翌日が、そのルミナリエの次の計画を決める日だと、こういうことでしたから、ああ、そうですかと、決まったら教えてくださいなと言って、どうなったんですかというて、こちらが催促したら教えてくださいましたから、わかりましたけれども、あのとき僕は言ったのは、あの今のコースで、あのままでいいのか。あるいは、あの日程でいいのか。あの警備状況でいいのかというようなことを聞いたんですが、そこらのところは審査されたと思うんですが、そのされた結果、結局同じことをするんだと、こういうことですけれども、その中でそういう話は出なかったのか。議会からはこういうことが出てましたよということぐらいは言ってくださったのか。

そこらのところもお伺いをしておきたいと思いますし、それから、瀬戸内クルーズのことについても、私、質問をさせていただきました。その瀬戸内クルーズもどこから来て、この神戸へ寄港して行くクルーズじゃなくて、神戸船籍のクルーズをやってほしいと。それも2泊とか、3泊とか、4泊とかというクルーズを神戸から発進をしてほしいと。だから、神戸を出航するときは、朝出ると。神戸へ着くときは夜着くんだというような、そういうクルーズを考えてほしいということも申し上げてきたんですが、そのあたりについてはどうなっているのかということをお伺いしておきたいと思います。

以上です。

17：○大森国際文化観光局長・観光監

○大森国際文化観光局長・観光監 私から、ルミナリエにつきましてお答えさせていただきたいと思います。

確かに委員ご指摘のとおり、予特委におきまして場所とか、そういったことについてご意見を賜っておりまして、次の日、組織委員会——実行委員会があったわけでございますが、その場では、実はその話題にもう既になっておりませんでした。実は、それまでいろいろ同じようなご意見をお伺いしておりましたので、そういったことにつきまして、ワーキンググループというのをルミナリエの場合、組織委員会のもとにつくっております。そこで場所、時期につきまして、いろいろな検討を、これまで2年間ほどして

まいってきておりました。

場所につきましては、少しお答え申し上げましたが、会場への輸送力の問題、それと、動線上で最後にたまりが必要だと——広場ですね。そういったものが必要だと。それで、周辺への——どう言うんですか、波及効果、そういったものが場所に対して非常に大きなウエートを、検討する上でウエートを占めると。

時期につきましても、本来でしたら1月の震災関連の時期がいいわけですが、当然東遊園地につきましては、1月17日に震災の関連の行事をやっておりますので、少し難しい。それで、周辺につきましても南京町で春節祭があったり、それでまた、イタリアの——これも問題あるとこかもわかりませんが、イタリアから機材を持ってまいりますので、イタリアでの祭りの関係で、どうしてもあの時期になってしまうというようなことで検討させていただきました。

そして、来年度につきましても、今回と同じような形であるべきではないかという形で提案を上げさせていただきますまして、組織委員会でご了承を得たというような状況でございます。

ほかの問題につきましては、ちょっと部長の方からお答えさせていただきます。

18：○井上国際文化観光局文化観光部長

○井上国際文化観光局文化観光部長 私の方からは施設、特に動物園とか水族園とか植物園で、施設の観光の関係を答弁させていただきます。

委員ご指摘のように、市内には動物園、あるいは水族園、植物園といったたくさんの観光的な施設があるわけですが、基本的にはもちろん、その施設独自のPRもされておられますけれども、我々観光の観点からも、例えばモデルコースをつくって、例えば植物園をめぐる、例えば、森林植物園と六甲山の高山植物園とか、いろいろ花の関係のルートをつくったりとか、あるいは、動物園と水族園とを結んでみるとか、いろんな観光ルートをモデルルートとしてご提案をされるとか、あるいは、神戸の街遊券という、主な観光施設59カ所が利用できる、そういった、いわばパスポート的なものを発行するといったような形で従来PRをしてきたわけですが、委員ご指摘の、例えば植物園につきましては、確かに我々も6月のアジサイというのは、森林植物園が日本一だと我々も自負しておりますので、何とかもっとPRをしていきたいと。

ただ、若干アクセスが現在不便だということもございますので、たまたま昨年11月に、全国の自然公園ふれあい大会というのが神戸で、六甲山で開かれまして、その折に、従来森林植物園と六甲山牧場、あるいは六甲山の山上を結ぶアクセスがなかったということもございまして、昨年は六甲山牧場と森林植物園を試験的にバスで、臨時バスですけども、結んでみました。結構人気があったということも検証されておりますので、ことしは6月に、ちょうどアジサイの季節でもありますので、アジサイを誇る森林植物園と六甲山牧場を結ぶ無料シャトルバスを山上の施設と一緒に、ぜひ、これも運行してみたいと考えておまして、そういった意味で、アクセスを開発することによって、より山上施設をめぐる周遊的なコースづくりに取り組んでいきたいと考えております。

また、水族園と動物園の、ちょうど水族園がこの3月15日に新駅ができましたので、これもその動物園と水族園を、ちょうどJRで行きますと、灘駅と、それから、須磨海浜公園駅が直接結ばれたということもございまして、水族園と動物園両方見ていただけるんじゃないかと。しかもマイカーじゃなくて、電車

で直接結ばれるということもございまして、水族園と動物園を両方見れる共通入場券みたいなものを発行いたしまして、ぜひとも両方見ていただくというPRも始めておりますし、また、動物園につきましては、ちょうどこれ、ある旅行会社、具体的に言いますと、ANAという全日空の関係なんですけども、神戸時間という商品を発売しております、その中で旭山動物園に負けないように、動物園の園長さんがガイドをしていただけるような、特別のオプションツアーをつけた商品を今回発売をしていただきましたので、そういったツールを使って動物園に来ていただいたら、パンダもありますし、単に見ていただくだけでなく、そういう専門家のガイドもできますよと、そういったような売り込みも今回始めておりますので、何とかそういった市内の施設を有効にPRをしていきたいと考えております。

以上でございます。

19：○花木みなと総局参事

○花木みなと総局参事 私の方から、瀬戸内クルーズにつきましてお答え申し上げたいと思いますが、先生ご指摘のとおり、瀬戸内海は我々神戸にとりましても、大変重要な、貴重な観光資源でございますし、神戸港はその瀬戸内クルーズの拠点港といいますか、ハブ港として、これからさらに誘致を推進していきたいというふうに考えておるところでございます。

ご指摘いただきましたように、この資源を十分堪能いただくためには、やはり朝といいますか、昼ごろに出航し、神戸港に夕方帰ってくるというのが1つ、本当に理想的な形態ではないかというふうに考えております。

このクルーズにつきまして、昨年3月に神戸経済同友会の方から、神戸港を瀬戸内クルーズの母港に、そして、世界を代表する交流の港にと題する提言が出されたところでございますが、それを受けまして、ことしの7月16日から18日の2泊3日で、神戸港発着で、これ、瀬戸田という——生口島、広島尾道でございますが、尾道と、それから、四国の高松を回って神戸に帰ってくる実験クルーズが実施されることになってございます。このクルーズは朝11時に神戸港を出航しまして、16日の11時出航、18日の20時に中突堤に戻ってくるというようなスケジュールで企画されております。このものにつきましては、神戸市としましても、この瀬戸内クルーズの魅力を一般に発信する大変よい機会であると考えておりまして、さまざまな機会をとらえてPRを行うなど、積極的に協力しておるところでございます。

ご指摘のように、さらに誘致を積極的に進め、神戸港が瀬戸内クルーズのハブ港となるように、今後とも全力を挙げて取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

20：○大森国際文化観光局長・観光監

○大森国際文化観光局長・観光監 私どもは特にウオーターフロントを東西で重要性を分けようわけでは決してございません。西の方も当然ながら、先ほど委員ご指摘のとおり、兵庫運河等もございますので、観光振興の観点からも、そういったものを活用しながらやってまいりたいと考えてございます。

それと、先ほどちょっと私、ルミナリエの件で1点言い忘れておりましたが、当日の委員会におきまして、地元の方からの要望が実は出てまいってきておりまして、それが少し議論されております。これまで

の、委員ご指摘のルートとか誘導路、そういった問題とか、若干時期等のことにつきましても、地元の方からの、委員に入っておられる方ですか、ご意見がございまして、また、そういった問題につきまして、組織委員会としてきちんと文書で回答するというようなことになってございます。

以上でございます。

21：○委員（北山順一）

○委員（北山順一） 大森局長が——ルミナリエについていろいろご説明をいただきました。

できない、その日程は変えられない、場所、ルートは変えられない、警備変えられない、そういう変えられないという理由ばかりだったなという感じをしながら、もう初めから変える気も何もないのかなというふうに感じながら聞いておりました。だけど、地元からそういう意見も出てきたと、こういうことで、そういう地元の意見も大事にさせていただいて、実際に今のあのルミナリエのあり方、よう考えてください。

ルミナリエ見に行ったら、必ず写真撮りたくなるんですよ。写真を撮ろうと思って、カメラを構えて、被写体に前に行くとそこへ立てと言うたら、立ちどまらないでくださいというて、マイクで言うてくれるんですね。写真も撮れない。立ちどまらないでください、列からずれないでくださいというて、あれはちょっとね、どこかほんとは引率されておる、小学生か中学生の引率みたいな感じ、幼稚園かもわからへんね、そういうふうな感じで、ちょっとわびしい感じなんです。

ほんとの意味で、神戸へ来て——鎮魂ということも事実ですし、大事なことですけれども、観光という面も随分多いんですから、そうなれば、やっぱり消費をしてもらわなければならないという立場から言えば、横から入るのも自由です、出るのも自由です、どうぞ十分堪能してってください、写真も十分撮ってくださいというような、それぐらいの工夫をしましたよとかいうぐらいあればいいんですが、今の話だったら何も、あれもあかん、これもあかんの、あかんやつの理由だけでしょう。だから、あかんやつ理由じゃなしに、せめてこの写真だけでも自由にしましたよとか、出入りだけでも自由にしましたよとかいうぐらいのことはひとつやってほしいなと、こう思っております。

それから——それについて、またちょっとコメントくださいね。

それから、先ほど動物園、植物園の問題も井上さんの方でご答弁いただいたんですけれども、私が申し上げましたように、京都の植物園も随分工夫しておるんですよ。随分工夫しております。何か、高い木の上は実際どないなとんかなというときには、高いところへ上がっていけるようにしてあるんだとか、旭山動物園だって随分工夫してますでしょう。ペンギンですか、ペンギンに行列をさせたり、あの寒い中でライオンやらトラなんか、あれ、熱帯の動物や思うんですが、寒い寒い中でへっちゃらで歩いてますが、あれ、何でしょうね。そういうふうなことができるんだということすら、私たちはわからへん。ライオンや、ああいうアフリカに生活しとった動物が、旭山の氷がいっぱいある、雪が積もっておるところで、ずっとへいちゃらで外へ出てるというようなことができるんだということすら知らなかったけれども、しておると。だから、驚きなんです、私たちから見たら。

そういうふうなことも含めて、あんな立派な神戸の王子動物園とか水族園、これは本当に駅ができたことによって活性化するだろうと思っておりますけれども、活性化するだろうじゃなくて、活性化させる起爆剤だ

と、こういうことで努力してほしいと、こういうことをお願い申し上げたいのと、この植物園については、アジサイはもうほんとに日本一です、これは。もうこれはだれも文句は言わないと思いますけれども、アジサイの時期外れたときね、要するに、数字で言えば20万台なんです。京都は70万台回復しまして、今度はそのピークの140万を目指そうというようなことを言っておるようでございますから、20万ですから、せめて50万目指そうというぐらいのことを、ここに建設局、あれは教育委員会ですか。（「建設です。」の声あり）

建設の関係者がおったら、ちょっと肝に銘じて50万目指していただきたいということを私言っときます。そういうふうな努力をしていただきたいということ。

それから、クルージングについては、もう努力してください。これはもう、ほんとに私も答弁を満足して聞いておりました。頑張ってください。

以上です。さっきのことだけ、ちょっとお願いします。

22：○大森国際文化観光局長・観光監

○大森国際文化観光局長・観光監 ルミナリエの写真撮影等でございますが、私どももできるだけゆったりと見ていただきたいという気持ちはあるんですが、何分警察協議等で、なかなか混乱、混雑を避けるようという強い指導を受けております。ただ、現実的には結構皆さん、いろんな場で写真を撮っていただいていると思うんですが、それを強制的にだめですよという……（発言する者あり）

警察——警察は言うております、絶えず、今申し上げましたように、混乱と混雑を避けるために、もう警察の私どもも強い指導を受けておりますので、ただ、現実的には若干そこら辺も、運用の範囲内もあるんじゃないかなと思っております。

ただ、いずれにしましても、こういった誘導とか案内誘導システムというものにつきましては、我々もできるだけいろんな形を考えて、スムーズな形、混乱と混雑が起こらない、しかも、来られた方に満足していただけるような形をできる限りこれからも努力してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

23：○委員（北山順一）

○委員（北山順一） あと1点ね、先ほど申し上げました、都心ウォーターフロントと言ったら、もうハーバーランドから全部東になってしまっておる、このことについて、いや、そんなことないよという返事をもらっておりますけれども、実際兵庫運河がありますし、あの運河の向こうには苅藻島があって、その隣に長田港があって、あそこで漁業があるんですよ、実際にね。ああいうのんこそ、大都市の神戸で、漁業や農業に直接触れることができるまち神戸というのは、これも大きな魅力の1つなんです。そこらのことも考えていただいて、これから都心ウォーターフロントじゃなしに神戸のウォーターフロントと、都心なんか外してください。そしてね、西も含めた、長田も須磨も、あるいは、明石まで含めたぐらいの範囲で考えていただきたいと思うんですが、その決意だけをお伺いしたいと。

24：○中村企画調整局長

○中村企画調整局長 ウォーターフロントのご質疑でございますけれども、従来から北山委員のご意見はもう重々よくお聞きをいたしております。ただ、都心ウォーターフロントというのは、我々今進めようとしておりますデザイン都市・神戸、その中でも特に空間、まちのデザインづくりの中のいわばリーディングプロジェクトとして位置づけているということで、都心ウォーターフロントということを一先懸命申し上げてはおりますけれども、ご指摘がありますように、西部地域についてのウォーターフロントにつきましても、重々頭には入っております。

今年度、兵庫運河につきましては、国の再生プロジェクトに認定をされました。それにつきまして、20年度は関連部局、あるいは、地元の皆さん方と一緒に、そのありようにつきまして考えていこうという取り組みもいたしております。その中で、西部地域のウォーターフロントとのつなぎの問題とか、そういうこともあわせて議論をしていって、決して忘れてはいけないということだけをご理解をいただきたい、このように思っています。

25：○委員（北山順一）

○委員（北山順一） よく理解をいたしました。さらに西へということ、いつも覚えといてください。以上です。